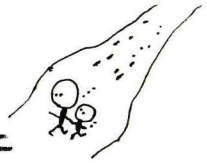
よっちゃんだより

2016.2月号 vol.79

㈱ISO
保険の相談パートナー
餘助 康弘

親子



何組かの親子達（子は成人してます）に同じ質問をしてみました。

Q1. どのくらい連絡を取り合っていますか？

親：私の方からばかりで・・・

子：10日後にみたりしてます。エヘヘ（メール）

Q2. どのくらい思い出しますか？

親：思い出すというより毎日メールとか確認しますから・・・毎日・・・

子：思い出す？ 月に・・・週2くらい？

Q3. お互いにもらった思い出の物は？

親：「おとうさん、おしごといつもありがとう」の手紙は嬉しくて会社のカバンに

子：何もらったかな～ おもちゃかな・・・ ファイルに挟んでいます。

Q4. 家を出た時、どう思いましたか？

親：引っ越しの日の帰りは大泣きでした。

子：最初の1ヶ月は、ただただきつくて・・・。

※後で親の回答VTRを子供に見せたところ、みんな涙してました。

親からの愛はとてもなく大きい様です。

私も先日、先輩から、「よっちゃんは子供たちを愛している様に親からも同じ様に愛されとるよ！」「親に対してやさしくなれとる？何気ない会話でいいんやよ」って言われたところです。

命

のぐち うじょう
～野口 雨情～

何をしてもうまくいかず、大学中退、事業の失敗、会社に勤めるも上司となじめず辞めてをくり返す。

そんな彼にも子どもが生まれるのですが、1週間で亡くなってしまうのです。そして、自分のことをこう言います。「私は旅人である。苦痛の旅人である」と。

ある日、1週間で亡くなった娘が夢に現れ瞳に涙をいっぱい浮かべていたそうです。わずか1週間しか生きることができなかった娘を想うと、自分は父母から健康な体をいただき何なんだと奮い起ちます。

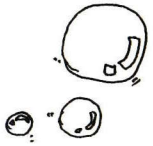
そして、この詩ができます。

「シャボン玉」

シャボン玉飛んだ　屋根まで飛んだ　屋根まで飛んでこわれて消えた

シャボン玉消えた　飛ばずに消えた　産まれてすぐに　こわれて消えた

風、風、吹くな　シャボン玉飛ばそ



わずか1週間しか生きることができなかった子ども。

自分の人生に挑戦すらできなかった子ども。

この時、雨情は痛感したのでした。

命のはかりしれない価値を。

いつもありがとうございます。来月号もお楽しみに